

発刊にあたって

民医連の看護は、「患者の立場に立ち、患者の要求から出発し、患者とともにたたかう看護」を視点として位置づけ、これに基づく実践から「総合性・継続性」「無差別性」「民主性」「人権を守る運動」の到達点を築いてきました。

しかし、民医連の看護管理者が世代交代していく中、民医連の看護が培ってきたものの認識が薄れがちになっている現状があります。また、国がすすめる医療政策のもと、患者の重症化、医療の高度化がすすみ、業務に忙殺されるあまり、掲げる理念と自分たちの実践がつながっていないという感覚や思いが語られることがあります。

このような状況を打開し、民医連の看護を継承し発展させるために、近年では冊子「民医連の看護が輝くために」や「看護10ストーリーズ～輝くいのちの宝石箱」を出版し、全国での活用をすすめてきました。また、2010年の綱領の改定により、新綱領を実践する看護をすすめていくことが求められるようになりました。

全日本民医連第40期看護委員会は、民医連の看護に関わる過去の論文、出版物、事例を検討し、受け継がれるべき看護の本質と特徴を明らかにするための調査・研究を行いました。研究結果は「民医連の看護 受け継がれる歴史と特徴～民医連の看護のものさし～」としてまとめられ、研究結果の全体像がポスターで示されました。

41期から42期にかけて、全日本民医連看護委員会は、40期の研究結果をふまえて検討をすすめ、以下について確認しました。

- ①民医連の看護の根幹は日本国憲法と民医連綱領である。
- ②民医連のめざす看護は、看護実践の根幹に日本国憲法と民医連綱領をすえ、すべての人が人間らしく、その人らしく生きていくことをあらゆる場で援助する無差別・平等の看護である。
- ③民医連のめざす看護の実践において、70年におよぶ「よい看護」の探求から獲得した「民医連の看護の視点・優点」、民医連の医療理念にもとづく「患者の見方・とらえ方」、全日本民医連41回総会方針で提起された「社会の見方・とらえ方」を「民医連のめざす看護の基本となるもの」とする。

このブックレットは、民医連の看護の歴史、民医連のめざす看護とその基本となるものを示し、日々の看護実践やカンファレンス、事例検討会などに活かせる評価・検討シートと活用例について紹介しています。活用を通じて民医連の看護の継承・発展につないでいくことを期待します。